



図書館だより



初霜が降りる冬らしい季節の今日この頃ですが、そんな中「読書週間特集第4弾」をお届けします。今号は第3学年の先生方の推薦図書です。図書館では「先生が紹介されたあの本ありますか?」と聞かれる事が増えました。今までに紹介された本、あなたももう読んでみましたか?

鶴巻 勝理

『友達・棒になった男』 安部 公房著 (新潮社)



『棒になった男』は高校国語教科書にも載っているくらいだから、文科省のお墨付きである。皮肉とユーモアと悲哀のバランスが丁度いい。人間が生きることの哀切を、これから生きる君達がどう受け止めるのか。短篇ですが読み切れるのに、読後感は深い。とにかく安部公房の小説はおもしろいのである。

小高 聡

『ホテル・ニューハンプシャー』 ジョン・アーヴィング著 (新潮社)

もう10回以上読み返している。何かしら傷を持つ家族が、父親のホテル経営に翻弄され、波瀾に満ちた様々な出来事を経験していく物語。この本の作者は突拍子もない人物設定やアクシデントを展開する事で有名だが、この本もまさにその通り。一般的には癒し系ではないが、私には癒しの一冊であり、一番好きな小説だ。



滑川 孝則

『世界の宗教』 村上 重良著 (岩波書店)

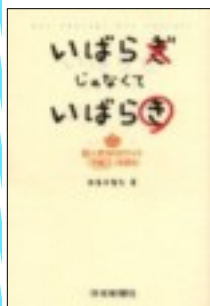
今日、宗教は世界中のどの地域にもあり、宗教が社会全体を動かしている国もあります。また、宗教は歴史の中で重要な役割を果たしてきました。三大宗教など世界の主要な宗教についてまとめた知識が得られ、社会を見る眼をひろげます。私も高校時代に読んだ記憶があります。今月重版とのこと。ぜひ読んでみてください。



河野 邦明

『いばらぎじゃなくていばらき』 青木 智也著 (茨城新聞社)

マックスコーヒーって知ってますか? 入れ物が黄色の下地に茶色の縦縞模様の極甘コーヒー。実は茨城と千葉しか売ってません。(最近では栃木でも発見されています。)他にも茨城でしか通じない物や言葉がたくさんあります。普段何気なく使っている言葉がどれだけ県外に通用するのか。茨城県民必読のマニアな本です。



櫻村 敦雄

『今日は死ぬのもってこいの日』 ナンシー・ウッド著 (めるくまー)

心に迷いが生じたとき、この本のページをめくってみる。人は必ず死ぬ。だからこそ、後に悔やむことない生き方をしようじゃないか。いつかまたどこかで会おう。そんな大らかで重みのある彼ら=インディアンの言葉が心に響く。挿絵も素晴らしく



比類ない美しい本である。私にとって大切な人に贈りたい一冊でもある。

萬場 努

『鏡の法則-幸せを引き寄せる18のメッセージ』 野口嘉則、竹沢宵子著 (総合法令出版)

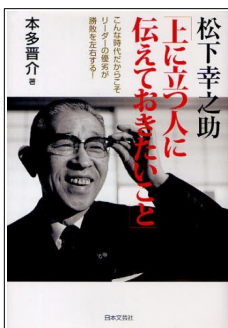
今まで読書嫌いであった人も漫画をおりませているので非常に読みやすい作品になっていると思います。是非読んでみてください。色々何か感じるものがあるはず。あなたもこれを読めば幸せになることまちがいないです。



滑川 良子

『松下幸之助「人の上に立つ人に伝えておきたいこと」』 本多 晋介著 (日本文芸社)

副題に「幸之助はなぜ人の心をつかむのか。」とあるようにその秘けつについて書いてあります。自分の気持ちを相手に伝えることが上手に出来たら良い、と思っている人におすすめです。これから人生を築いていく皆さんにとって、きっと役に立つことが書いてあると思います。今年の10月に出版ばかりの新刊で、電気製品や社屋など懐かしい写真もたくさん掲載されていてとても読みやすい本です。



小澤 光志

『祇園の教訓』 昇るひと、昇りきらずに終わる人』 岩崎 峰子著 (幻冬舎)

英米仏でベストセラー・世界13カ国に感銘感動を与えた本。世界や日本のトップの方々を身近に接してきて言える一流の条件とは一生懸命なこと、好奇心があること、何にでも興味を持ち生活に美意識を持っている人が多いとのこと。また、お座敷は一期一会の作品。そういう場で培った心配りやマナーなどがわかりやすく書かれている。



杉山 和則

『2010年版 図解革命! 業界地図 [最新] ダイジェスト』 (高橋書店)

問) 次の企業を売上高の高い順に並べよ。
1) コンビニ ローソン セブンイレブンジャパン ファミリーマート
2) 家電メーカー ソニー パナソニック 日立製作所
3) 陸運 ヤマトホールディングス 郵便事業株式会社 日本通運
GDP約500兆円を誇る日本の産業。業界ごとにそのトップの動向を概観してみよう。

